

2023年7月12日(水)開発途上国ビジネスニーズセミナー(社会基盤分野)
当日の質問と回答

質問	回答
<p>開発途上国の社会基盤分野に、どのようなソリューションの可能性はあるか、もう少し教えてください。</p>	<p>例示にはなりますが、以下のような新ビジネスの展開が考えられます。 都市・地域開発: 電子決済システム、センサーを活用した各種システムの最適化、都市 OSの構築、オープンソース型地理情報システム、渋滞、犯罪、防災等の情報提供、各種行政手続きの円滑化ビジネスなど 運輸交通: ICTを活用した測量・設計、ICTによる建機の操作等、点検における最新技術の活用、ICTを活用したモニタリング効率化、迅速な修繕実施に関する技術・ノウハウ、データ活用による交通事故危険個所の分析、安全向上グッズの開発等 資源・エネルギー: 送配電ロスを減らすための各種技術適切な施設設備、新素材、ニーズに合致した発電設備、小規模・安価・安定およびビジネスモデル、省エネ機器・製品、ICTを活用した効率的な運用マネジメントノウハウ提供等</p>
<p>デロイトトーマツのスライド52ページの(株)愛亀様のカンボジアでの事例について、展開された舗装補修材の商品名を教えてください。</p>	<p>省力型常温舗装補修材「エクセル」になります。下記URLもご参照ください(カンボジア国での普及・実証事業業務完了報告書)。 https://openjicareport.jica.go.jp/614/614/614_109_12306700.html</p>
<p>JICAグローバルアジェンダの視点から見て、「民間企業にとってのビジネスチャンスはこのあたりにあるのでは？」といったご示唆があればお願いいたします。</p>	<p>直面する課題対応としては、途上国で顕在化しているインフラ施設老朽化、高齢化への対策。点検・診断・処方をするサービスなどが考えられます。都市人口増加という事象に対しても、居住、移動、電力サービス供給など膨大なニーズが発生しますので、それらにどのように対応していくのがよいか、日本では規制その他の関係で試行的導入が難しいアイデアを開発途上国で実用化し、日本に逆輸入する、「リバーステクノロジー」を実践するのもよいと考えます。</p>
<p>JICA社会基盤部のスライド6ページ「資源エネルギー グローバル・アジェンダ」の「背景」5つ目に「日本らしい支援」とありました。具体的にどのようなことか教えてください。</p>	<p>「日本らしい支援」には、様々な観点がありますが、一例として、ライフサイクルコストの考え方があります。施設・機材等を供与するだけでなく、維持管理に日本のノウハウを提供することで、運営をサポートし、長期でみたコスト低減を図ることが、日本の強みになり得ると考えます。 民間企業様との連携においては、例えば、民間企業様に施設・機材等を納入いただき、JICAの技術協力により運営・維持管理の能力向上をサポートするような組み合わせが考えられます。</p>
<p>JICA社会基盤部のスライド9ページにあった「カスピ海ルート」とは、現在、中国が投資開発しているルートでしょうか。</p>	<p>ご理解の通り、中国が従来から一帯一路として投資開発しているルートの1つといえます。他方、カスピ海周辺国としては、中国・ロシアに過度に依存しないルートとしてカスピ海から黒海を経て地中海に抜けるルートなど第3のルートの確立を期待しています。ここに日本が寄り添い、支援することが重要と認識しています。</p>